

リスクコミュニケーションのお手伝いをします

リスクとは？

化学物質は私たちの生活を便利にする一方で、製造、使用、廃棄される過程で環境中に排出されることによって、人の健康や動植物などの生態系に悪い影響を与えてしまう恐れがあり、これを「環境リスク」とよびます。

その大きさは化学物質の有害性の程度と、**暴露量**（体に取り込む量）によって決まります。

化学物質の影響については、環境リスクの観点から考えることが必要です。

環境リスク

=

有害性

×

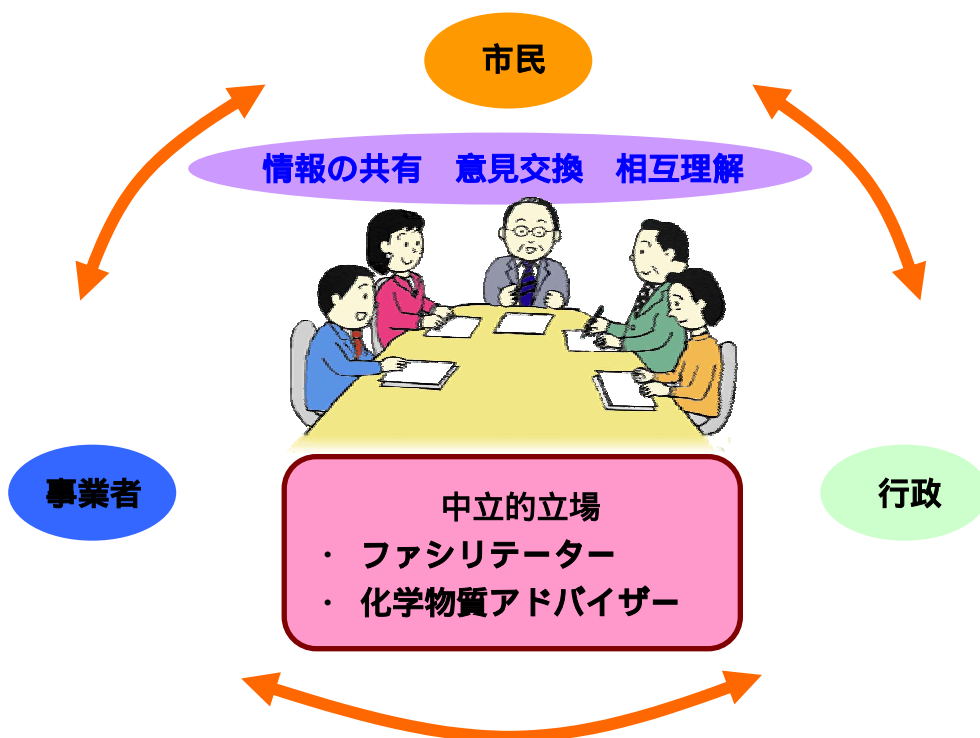
暴露量

有害性: 人の健康や生態系に悪い影響を及ぼす性質

暴露量: 呼吸や飲食、皮膚接触などの経路でその物質に接する量

リスクコミュニケーションって？

化学物質による人や動植物への影響を把握するには、科学的な知見が必要です。影響の度合いがわかったら、次は化学物質の量が人や動植物に悪影響を及ぼすレベルにならないよう、適切に管理することが必要になります。より合理的にリスクを管理し削減するためには、市民、事業者、行政が化学物質に関する情報を共有し、意見交換を通じて意思疎通を図ることが必要です。これを「リスクコミュニケーション」と呼んでいます。市民や事業者、行政がそれぞれ自分たちの都合だけを主張しては、化学物質による環境リスクを削減する取組がなかなか進みません。そこで、お互いの考えていることを理解しあい、力を合わせて取組を進めようとするものです。



なぜ、リスクコミュニケーションが必要なのか？

事業所の日常的な操業に関することや、化学物質による具体的な問題が生じた場合に、事業者と市民だけでなく地元の行政も交えて情報を共有し、意見交換を行って、相互理解を図っていくことが、必要です。

事業所の環境への取組について知ってほしい

事業所の化学物質削減の取組が妥当かどうか、市民の意見を聞きたい

周辺住民から苦情が来るので、その原因と今後の対策について説明し、理解を得たい

どうすれば、できるのか？

リスクコミュニケーションでは、事業者や行政に対して市民が不信感を持っている場合があるため、回答の仕方を誤れば、「難しい言葉を並べてはぐらかされた感じ」「きっと事業所に都合のいい情報を採用したんでしょう」といった住民の不信感を生み出す可能性があります。これでは、せっかくの機会を台無しにしてしまいます。そこで必要になってくるのが、中立的な立場から議論を整理する**ファシリテーター（司会進行役）**や、中立的に分かりやすく情報提供できる**化学物質アドバイザー（解説役）**です。

県は、どのように手伝ってくれるのか？

愛知県では、これから**リスクコミュニケーションを開催したい！**という事業者のお手伝いをします。

県が支援する内容（例）

リスクコミュニケーション開催にあたってのアドバイス

ファシリテーター、化学物質アドバイザーについての相談

当日の職員参加

会場費、ファシリテーター、化学物質アドバイザー等の諸費用は実施事業者の負担となります

とりあえず、話を聞いてみたいという方でも、お気軽にご相談下さい。

愛知県環境部環境活動推進課環境リスク対策グループ

T E L : 052-954-6212

F A X : 052-954-6914

Eメール : kankyokatsudo@pref.aichi.lg.jp